



8050問題対策の進捗

高橋 光孝



問 6月の定例会で、8050問題（大人のひきこもり）について質問したが、その後どのような検討をしたのか伺う。

健康福祉部長 8050問題に係る相談窓口で、具体的に検討するところまでは至っていませんが、先月末に国から市町村におけるひきこもり相談窓口の明確化と周知についてという通知が発出されましたので、窓口開設の可能性について勉強を始めたところです。

問 8050問題に限らず、ひきこもりに関する全世代の調査を行うてはどうか。

健康福祉部長 家庭の問題としては、外に相談できないデリケートな問題であり、慎重に行わなければなりませんので、先進事例を参考に調査の方法や内容等を含めて研究していきます。

義務教育後もサポートを

問 小中学校で不登校だった、いわゆるひきこもりになっていた生徒が、義務教育終了後、どのような生活になっているか市では把握し、連

携しているのか伺う。

市長 将来を見据えた場合は、ずっとサポートする必要があると思いますが、義務教育から外れば、別社会としての受け入れ体制をつくらなければいけません。地域共生社会という中で、改善策ができるか研究していく必要があります。

問 8050問題を含め、自殺防止、全世代のひきこもり、生活困難、虐待など、総合的な相談窓口を開設してはどうか。また相談窓口には本心で相談しやすくするために市外在住の相談員がよいと考えるがどうか。

市長 社会としての受け皿をしっかりとつくるということが大事だと思います。県が中心になってしっかり人材を育成していただいて、対応できるシステムをつくっていかねばならないと思います。大変身近な市民との話になるわけでもしかすると市以外のほうがいいのかなど、今のお話を聞いて感じましたので、いろいろな研究をしていきます。



台風19号への対応

佐藤 剛太



防災アプリの機能とは？

問 今回の台風時に、岩沼市が震災後導入した「震災伝承防災アプリ」が全く機能しなかった原因と理由を伺う。

総務部長 このアプリは、委託先の運営状況が悪化したために業務の履行が現在困難な状況が続いており、データを保存しているサーバーへのアクセスができない状況となっているため、システムのダウンロードが今できないという状況になっています。

問 アプリが利用できないことを、我々議員も全く知らなかった。そのことを市民にどのように発信して、伝えていたのかを伺う。

総務部長 大変申し訳ございませんが、現在もこの委託業者に連絡を続けており、早期の回復をお願いしているところです。現在のこのような状況について、市民の皆さんへの周知は行っていませんでした。

問 アプリの導入や更新に伴う経費は、いくらかかったのか。また

更新回数を伺う。

復興創生課長 アプリ導入の費用は、477万3600円、更新に伴う費用は、プログラム保守管理の範囲で行っていることから、その費用として、平成27年度の導入時から30年度までの49年合計で、14万616円となっています。更新回数は、平成29年3月までに7回更新しています。

問 ハザードマップは、更新はいつまで行っていたのか伺う。

復興創生課長 最終更新が平成28年度になります。

問 震災伝承の機能がほとんどで、災害時に対応できないアプリであれば、一度リセットして、このアプリをなくしてもいいと考えるが、市長の見解を伺う。

市長 29年の3月以来、更新をしていないというところに大きな問題がありました。今、アプリの更新が行えるかを調査しており、新しい防災アプリの導入も検討していく必要があると考えます。